

かという問題もある。

一律に評価することに
なれば、「補助金はいら
ない」ということになり、
団体活動が停滞する可能
性も出てくる。重要性は
承知しているが、いざ実
施となると難しい。

②すべてを掲載し、町民
に配布すると膨大な予
算がかかる。いろいろ
な施設に置いたり、町
内回覧などで見ていた
だいたり、ホームページ
に載せることも可能であ
るが、どのように評価す
るかが一番の問題であり、
成果についての公表は相
当研究していかなければ
ならない。

パークゴルフ場の 無料化

佐藤幸一 議員

町内のパークゴルフ場
は町民の健康づくりの場
として活用されている。

町民の健康づくりの増
進を図るためにも、新年

度から無料化してはいか
が。町長の考えを伺つ。

高薄町長

6月の定例会でも早期
に検討するというお話を
した。

平成26年4月の段階で
の管内状況は、全面無料
化が10市町村あり、残り
の9町村も今後無料化の
方向にあると聞いている。
今後については、本年
度のパークゴルフ場の利
用状況、収入等の実績に
ついて再度分析し、方向
性を考えていく。

10号道路の 踏切拡幅を

佐藤幸一 議員

10号道路には歩道が整
備されているが、踏切に
進入すると急に幅が狭く
なる。特に朝夕の高校生
の通学時には狭い踏切が
混雑し、非常に危険な状
態である。事故が起きて
からでは遅いので交通安
全の面からも踏切の幅を

広げる必要があると考え
るがいかがか。

高薄町長

10号道路の踏切は若干
広くしたものの、まだ狭
い。改善について以前J
Rと協議したが、拡幅工
事はJR専属の指定業者
が行うことになり、町内
業者が行うことはできな
い。また、費用は全額町
が負担しなければならず、
平成14年当時で6千万円
強の予算が必要とのこと
で見合わせた経過がある。

JRには、駅のホーム
の階段解消の件でも要望
しており、今後も併せて
協議していく。高校生に
は歩くときに列にならな
いよう学校を通じてお願
いしていく。



10号道路の踏切は歩行者も多く、
危険な箇所である。

まちづくり計画 (第5期総合計画) 推進の疑問点

原 紀夫 議員

平成23年から平成32年
までを計画とする清水町
まちづくり計画は、町民
を主体とする策定委員会
が設置され、80回にも及
ぶ会議を重ね、約1年間
かけてまとめあげたもの
であり、現在3年半を経
過している。今後10年間
のまちづくりを自ら考え
実行するという協働のま
ちづくりで、本町最上位
の計画であり非常に重要
なものと考えている。

しかし、近年の計画推
進過程をみると、納得し
たい事業が数多く指摘
されている。
計画策定に関わった町
民や職員からは、近年の
議会でのことについて、
この計画をしっかりと認
識し、まちづくり基本条
例を守ればこのようなこ
とは起こらないとの厳し

い意見も聞かれる。今後
の推進についてどのよう
に考えているか。

高薄町長

まちづくり計画はあく
までも計画であり、これ
に財政が伴わないと実行
的な形になっていかない。
数カ月単位で変わってい
く社会情勢、経済情勢な
ども考慮しなければなら
ない。

実施計画については、
事業内容を課で評価をし
ながら住民や団体とすり
合わせをし、最終的に調
整会議を経て、総務課・
企画課を含めて検討・精
査して計画づくりを行い、
そして総合計画審議会に
審問、答申し、予算原案
を決定して、議会に提案
している。

今後もこれまでと同様
の考え方であるが、平成
27年に向けては、4年経
過するので、見直しをす
るためにも、各関係機関、
団体、あるいは分野別の
会議を開き、検証してい
きたい。

清水赤十字病院の 診療体制

原 紀夫 議員

昨年12月の定例会で、
医師の退職等による医師
不足のため、出張医師に
よる診療が多くなり、町
民に信頼される病院機能
になっていない旨を指摘
し、町としての対応を伺
ったが、その後どのよう
な状況にあると認識して
いるのか。

現在もなお出張医師に
よる診療が大半を占めて
おり、町民から不安の声
が聞かれる。患者の減少
による経営悪化により、
町が財政支援を行ったと
しても現状のような体制
では焼け石に水の状態で
ある。

常勤医師の確保は難儀
することではあるが、町
としても最大限の努力を
し、病院側との両輪で基
幹病院の信頼回復に努め、
医師の確保にあたるべき